

ICカードは2枚重ねても使えるらしいという話

府職の友 本庁ニュース

発行
大阪府職労
内線3746

職員証がICカード化されてから久しいですが、磁気カードのスリット時代からカードリーダーが半減して、最初は朝の出勤時など混雑しないだろうか?と思いましたが、問題なく処理できているようです。

このICカード、2枚重ねてタッチすると電波干渉でエラーを起こす...というのが世間の常識。なので、ICカードセパレーター(電波干渉防止シートやパスケース)が売られていて、利用されてる方も多いと思います。

でも、筆者は職員証とICCOCAをセパレーターなしで財布に入れていて、普通に駅の改札を通していません。みなさんの中にも、そのことに気付いている方がおられるのでは。

それもそのはず。ICカード自体は、もともと2枚重ねて使うことが想定さ

れていて、問題になるのはカードの組み合わせのようなのです。ということ、その仕組みを少し調べてみました。



庁舎に設置されているカードリーダーのメーカー(アマノ)のホームページを見ると、カードリーダーは「FeliCa」対応であることがわかります。FeliCaというのは、ソニーが開発した非接触型のICカードで、PiTaPaやICCOCAなどの交通系ICカードやおサイフケータイなど、日本で最も普及している規格です。

このFeliCaは、ICカードに仕込まれているアンテナ形状やカードリーダーの仕様、複数のICカードからタグを正しく読み取るアンチコリジョンといった技術により、カードの2枚重ねが可能なのだそうで

す。ということで、職員証とICCOCAの組み合わせは問題ないようだということが判りました。

でも、実際には、交通系ICカード:例えばPiTaPaとICCOCAを2枚重ねると、駅の改札で「枚数超過」とエラーが表示されて、通過できません。

これには理由があつて、交通系ICカードは、発行会社が違つても相互利用が可能になっていますが、そうすると2枚重ねた時に、どちらのカードで入場するのか、精算するのかといった判断が、カードリーダー(この場合は改札機)側でできないから、なのだそう。電波が干渉しているわけではなかったのですね。

ただし、3枚、4枚と重ねたり、規格の違うカードを重ねると、カード同士の電波干渉やICチップの電力不足によりエラーを起

こしてしまうそうです。さて、退勤にもカードリーダーが導入されたのが2012年10月。このとき、府職労は退勤スリットを活用して実態把握を行い、職員の健康管理に活用するともに残業の縮減を図ることを当局に求めてきました。

しかし、いまの実態は、膨大な業務量に対して一人当たりの時間外勤務が増え、長時間労働が常態化しています。

府労組連夏期闘争がはじまりましたが、深刻な長時間過密労働の解消と業務量に見合った職員定数配置による人員増を、みなさん一緒に求めていきましょう。



水曜日は
1-残業-
自分の健康と家族のために
定時に帰きましょう!